明治卅六年四月二日第三種郵便物認可　毎月一回二日發行

家庭雜誌

第貳卷

第十一號

明治三十七年十一月二日發行

妻に與へたる予の手紙（堺枯川）……一
佐々夫人を訪ふ（渚山）……三
○平河町の新居　○殺すと云ふ文字　○境遇の利用　○一擧一動皆な計畫あり　○眞に家庭を愛する主人　○平等思想　○世の中には惡人なし　○家庭と黒板　○「誠と情」
所謂婦女の情（安藤兎毛喜）……一二
理科問答（二題）
サラドの話（緑亭主人）……一七
芝居雜感……二一
△劇化せし「不如歸」　△劇の改良　△觀客の下品なる趣味　△俳優の藝人魂性　△芝居と家庭
鑛毒地見舞の記（小林やす子）……二四
獨哀（石川旭山）……二五
兵士と故園（家庭通信）……二七
二葉園藝（エデンの花守）……二八
○食用菊のこと　○臺灣の果物　○柿の實落を防ぐ法　○園丁料理　○花守の手帳
家事の心得（五題）……三一
編輯便り……三二

由分社

東京市麹町區中六番町十番地

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

●本社取次書目●

小説 火の柱
木下尚江著
定價卅五錢 郵稅不要

▲社會主義の思想と基督教の信仰とが如何に此書の中に融和結合せられたるかを見よ▲六月十日初版二千部、八月十日再版五百部發行▲再版には雪の如く梅の如き女主人公と、鐵の如く松の如き男主人公との畫像を挿めり。

消費組合の話
石川旭山著
定價十二錢 郵稅不要

▲消費組合は英國の勞働者をして自立自營以て其厄を免れしめたる自助的團體なり▲消費組合は其組合員をして知らぬ間に獨立自由の人たらしむる唯一手段也▲消費組合は日本產業組合法中に於ける購買組合と同一物也

青年と生存競爭
定價廿錢 郵稅二錢

安藤兎毛喜著

(此書に限り定價の二割引)

妾の半生涯
定價三十五錢 郵稅當方持

福田(舊性景山)英子著

●本誌定價及廣告料

一部	一ケ月	六ケ月	一ケ年	全國
金六錢	金六錢	金卅二錢	金六十錢	無遞送料

廣告料――特別一頁七圓、普通一頁五圓

注意

一、本誌は每月一回(二日)發行とす。

一、本誌の購讀料は小爲替を以て御遞送の事。
但し郵劵代用の節は五厘切手にて一割增の事。

一、購讀者は住所姓名を詳細に記して申込まれたし。又轉所の際は新舊の宿所共併せて御通知あるべし。

一、爲替振込局並に受取人は無指定にてもよろし。

明治三十七年十月廿九日印刷
明治三十七年十一月二日發行

發行兼編輯人 東京府豐多摩郡千駄谷村字原宿百九十一番地 西村惠治郎

印刷人 東京市京橋區日吉町十番地 中村彌助

發行所 東京麹町區中六番町十番地 由分社

大賣捌所 上田屋 良明堂 東京堂 東海堂

印刷所 東京市京橋區日吉町十番地 近藤商店

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

家庭雜誌
第二巻　第十一號

妻に與へたる予の手紙

枯川生

▲失禮とは思ひながら又少しばかり書きつけます。

人の命は人の力でどうする事も出來る者ではない、病人が先に死ぬるやら丈夫な者が先に死ぬるやら分りはせぬ。命の事は神に任せておくより外はない。然し神に任せる前に人の力で出來る丈の事はせねばならぬそこで醫者にもかゝる、藥も飲む、滋養物も食ふ、運動もする、用心もする、總て出來る丈の事をしておいて、それから先は神に任せる。

實は病氣ばかりではない、何事もその通り、自分の善いと思ふ事をしておいて、それから先は神の指圖を待つ。自分の善いと思ふ事をしておけば、跡でどんな事があらうとも少しも心苦しい事はない。よしどんな辛い事があらうとも、よしどんな悲しい事があらうとも、それも何かの神のお指圖と思へば、ジツとして心よくそれに從ふより外はない。そう云ふ風に考へて見れば、辛い中にも悲しい中にも又味ひが出て來る事がある。

人間は安心といふ事が一番で、安心のある者は騒ぎもせず、怨みもせず、悲みもせず、怒りもせぬ。安心とは自分がすべきだけの事をして、其跡を神に任せた時の心持である。昔の武士は忠義と云ふ事を守つて、それで十分に安心して、平氣で切腹までしたものだ。不肖ながら利彦でも、守るだけの事は守つて、そこに聊か安心して、平氣で貧乏や艱難をこらへる位な事はする積り、兼て落ちついて騒がぬ人と云はれて居るお美知さんなどは、此安心といふ事をよく〳〵工夫するが善い。

自分の住んで居る家を奇麗に片づけて、ふきそうじも十分にして、庭も掃いて表も掃いて、衣類も清潔に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

して、身體の垢もよく落して、出來る丈け養生をして食べられるだけの物を食べて、髪や容にも氣をつけて言葉を愼み、行ひを愼み、人に會つて機嫌を善くし、人の爲に親切に考へ、我儘を云はず、勝手な事をせずそれだけにしたならば必ず安心が出來るに違ひ無い。それだけにして若し人に惡く云はれうとも、それは自分のセイでないから仕方がない。それだけにして若し不仕合せな事にならうとも、それは自分の廻りあはせだから仕方がない。それだけにして若し病氣が惡くならうとも、それは此身の免れられぬ運命だから仕方がない。いづれにしても自分が招いたのでないから、只神のお指圖に默つて從ふより外はない。神は必ず惡しからぬやうに我を導きたまふであらう。斯う思ふのが即ち安心といふものだ。斯う思つて安心して、氣を樂に持つてゐれば、人間が上品になつて、柔和になつて、體も自然すこやかになつて來るに違ひない。モウよそう。

鏡を見て自分の顏が善く見える時は、イツモ心の正しい時だ。心を正しくせねば顏も善くならぬ。顏が善くなる樣で無ければ體も善くならぬ。何にしても心を正しく持つが第一番の事だ。お前が鏡を見て顏色が善かつたと云ふから嬉しくてならぬ。猶其上にも心を正しくする爲にと思つて、計らずも長談義をやつた。

昨夜は當直でおそくまで社に居つた。歸り道にビールを一パイ飲んで、善い心持でぶら〳〵歩いて戻つて來た。

夜九時半　　　とし彦

おみちさま

* * * * *

格言一束

△只金錢の爲めに結婚する人より惡きはなく、只愛戀の爲めに結婚する人より愚なるはなし——ジヨンソン

△急に結婚すれば徐ろに悔ゆる事あらん——コングリーブ

△妻は花嫁よりも貴し——リツトン

△貞操なる細君は其人をして純潔秀美なる愉快を感ぜしむ。彼女の容貌は最も美麗なる花園の如く、彼女の精神は最も有益なる書籍の如し——カウレイ

△結婚は萬人の幸福の花たり又其害蟲たり——バイロン

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

佐々夫人を訪ふ

我家は世界中の最も幸福なる場所なりとの感情を子女の心裏に懐かしむるは某老紳士の策略なりき。予は此の甘美なる感情を以て、父が某子女に與へ得べき最上の恩賜ならんと思考する也

アーヴヰング

○麹町の新居

十月下半のある日曜日、午前の十時頃、記者は麹町平河町の大通を左折して、貝坂下のとある家の門前に歩を駐めた。標札を見ると佐々何々とまだ、墨色の新しいのが掛つてある。同時に訪問者の心は一種の飛び立つやうな嬉しさを覺えた。恐らく讀者諸君の記臆にはまだ甚だ新たであらう。右に記したとある家こそ、實は本誌第一巻三號の巻頭を飾つた記事、『隅田川遊の好家庭』の持主たる佐々氏の新住居であつたのである。さて門を這入つて玄關口へかゝると、其所には小倉鼻緒の薩摩下駄、巖丈な學生穿きの紐靴とが二三足づゝ並んであるばかりで、別に立派な下駄などは見えない。奥の方からはオルガンの響が笑ひさゞめく數人の聲と共に傳り、左側の臺所らしい處では、コツリ〳〵庖丁でも用ふやうな音がして居た。そこで記者は、『佐々いち子様。……を紹介す』と書いた堺氏の名刺に、更に自分のを添えて案内を乞ひ、直に通されたのは八疊敷の客間である。疊の上には新しい緞通が敷いてあつて、室内の模様はすべて西洋風仕立。先づ長椅子、籐の腕掛椅子、子供用の腰掛、それに一閑張の小さな小物臺、又其椅子の上には白や斑の毛皮が豐かに掛つて、來た客は何の椅子にでも好むが儘の席に付くやうになつて居る。記者は一番に手近な長椅子に倚り、南向きの椽側越しに鍵の手になつた庭面を眺めた。坪數は悉皆で六七十もあらうか、所謂庭としての手入がない代り、崖を利用した築山、其下には自然に出來たやうな池などがあつて、強て人工が加はつて居らぬ丈に、頗る超俗の趣味に富んで居る。此庭を下男らしい二三の人が裏の方から古い柱や板のやうな物を擔いで度々通る。隣室は子息達の部屋らしく、例のオルガンの高い調子は、襖一重を隔てゝ如何にも愉快げな響である。待つ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

間程なく、夫人はにこやかに溢るゝ程の情味を見せて記者の前に立たれた。豫て噂の通り色の白いすらりとした西洋風の體格の人で、羽織の下に着けられた地紋のある黒の袴は誠によく似合つて居る。

○殺すと云ふ文字

挨拶が濟むと、夫人は記者に着座を勸めて自分も正面の椅子に腰を掛けられた。頓て茶が出る、接待煙草が出る、先づ話は堺氏が前の淺草の住居訪問の際の間間違へ、（七人ある子息を記事の内に六人と書いてある）それから、それが原因となり、其後の雜誌に「堺さんに子供を一人殺されました。」と云ふ文句が夫人の話として載せらるゝやうな次第となつた事などに始まり、續手に強い聲の調子で、其文句の誤りである事を次の如く辨疏せられた。『妾は殺すと云ふ文字は、一寸聞いても身振ひする程厭ひです。』とて、往來を歩くにも蟻を踏みはせぬかと、戸外にある折はそれに一方ならぬ心配をしたと云ふ幼い時分の經驗やら、近頃では何時も血腥い記事や、勝つとか負けとか云ふ文字が出

て居る新聞は一切小供に見せもせねば、口へも出さぬと云ふ事やらを物語り、『さう云ふ風ですから、生れてから只の一度だつて殺すなど云ふ事を口にした例はありませぬ。あれは「小供を一人隱された」と申したのです。』と、如何にも眞面目な面色であつた。記者は此一言に依て夫人の人格の全班を覘ふ事が出來る。其親切で憐みの強い所は先天的の非戰主義者で、一に平和と博愛の化身と云つても好い。而して、子息達に戰時の新聞を見聞きなせぬと云ふのは得易からぬ高い見識で、これには一個の立派な敎育者の名稱を許す事も出來やう。夫より、約一時間半餘り、夫人は記者の問ひを待たず、家庭の事務と子供の敎育に就いて自ら經驗した事、感じた事のいろ／＼を、心地の好い程流暢に眞率に語られたのが、次の通りである。以下の諸項、これを煮じ詰めれば矢張前と同樣の一貫した思想の片影で、其堺外に逸するものとては一つもない。初めは此新居に移り來て、どんな風に夫人が臺所や食堂やを組立てられたか、それを一覽したいと云ふ心組みであ

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

つたが、聽くべき話が盡きぬのと、時間が迫つて居たのとで、終に其目論見は又の日の仕事に讓る事とした。

○境遇の利用

隅田川畔の官舍住ひは、丁度六年間で有たとの事である。夫人が此河に近い住居をどう云ふ風に利用したかと云ふと、其長い間子息達に水產上の智識を充分に注込まれた。それと同時に其魚類の應用、料理などから、其釣り方。最后には十圓と云ふ金子を投じて、態々一艘の小舟を作らせ、それを長男の方（僅か十六歲と記臆する）以下二名の弟さんにあてがつて、間接に自治的觀念と共同的精神の涵養を計つたと云ふ話であつたが、夫人の思慮の飽く迄緻密なるには一驚を吃せざるを得ぬ。夫人の曰く『それ迄は各自別々に働かせて置いたのですが、其舟が出來ると同時に、一人は漕手、一人は網打、殘りの一人が其網にかゝつた魚を捕上げる役と定めて、人々が同心協同すればどの位ゐの仕事が出來るかと云ふ事を知らせたのであります。』――記者は此時一寸言葉を挿んで、隅田川畔の卜居は、最初から此目算あつての事かと尋ねると、決してさうではない。只偶々水があつた故、其水を利用した迄の事、若し官舍が畠の眞中であつたとすれば、從つて又利用の仕方が異つたであらうと云ふ意味を述べられた。

○一擧一動皆な計畫あり

淺草の官舍を引拂つて、新しい住居の候補者を求められる折、夫人の註文と云ふのは左の三ケ條であつた。一、可也の間數のある事。一、草木がある事。一、小供達が端から端へ走るに、稍走りごたえのある程の庭が欲しき事。と云ふ丈で、やれ女中部屋がないとか、書生の居所が狹いとか、玄關が貧相で門が小さい、など、つまらぬ缺點を擧げる世間普通の奧樣連中とは、餘程其註文の趣を異にして居る。記者は夫人の高い見識に一々快味を覺え乍ら、不圖庭の面へ目を移すと、一番の兄樣であると云ふ人が、手に一羽の鷄を引下げて臺所の方へ行くのを見た。すると夫人は『あれはあの子が料理をして吳れるのです。』とて、其前日家内中（年上の子息二人を殘し）打揃つて、女子大學の運動會

に行つた事。それからその留守は二人で擔當し、其上晩方の總菜をいろ〳〵作らへて家内の歸りを待つて居た事などを笑ひ乍ら話された。記者は其運動會見物から思ひ出して、「度々其樣な風の催しを家庭的でなさいますか。」と尋ねると、左程に度々は行はぬ。とある。それも其筈であらう。佐々家の家庭は、常に春の海の如く、洋々として濃やかな情愛に溢れて居るのであるから、何も強いて樂みを外に覓める必要がない。夫人は次に斯う云つた。「昨日運動會の見物に參つたのも、實は外に考があつたからです。その考へとは、豫て女子大學の校内の組織が家庭的になつて居るやうに聞いて居るので、妾はその組織を見せて貰つて葉煙草專賣局(佐々氏は此局の長官)の工場に應用したいと思つた事であります。」――斯くの如く、夫人の一擧一動には必ず何等かの計畫が含まつて居るのである、世間多くの細君達は運動會の見物にも行くに違ひない。併し見物以上に誰が何の計畫を頭腦に描いて居るであらう。女中を供に附けるのも見得なれば、美しい衣服を

着けるのも見得。恐らく見物其物も見得の爲であらう。

○眞に家庭を愛する主人

家庭の爲めには自己のあらゆる快樂を犧牲にしても敢て惜しからぬと云ふ忠實な細君に對して、佐々氏は實に好一對の家庭家であつた。夫人曰く、「雜誌等でよく見る事ですが、「彼所の家は奧樣が偉いから、家庭は洵に美しく生立つ」などと云ふ人があります。併し、妾の考へでは奧樣斗りがいくら偉くとも仕樣がない。肝腎の家の大黑柱(夫の事)が家庭の事に全く無頓着なれば、決して完全に生立つものではありませぬ。」――實に世の中の紳士は佐々氏に學ぶべき點が澤山にある。氏は公の用事以外、今日迄に自分一己の快樂を得る爲に外出した事は一度もない。此記事の冒頭にあるアーヴキングの格言では、某老紳士が一種の策略として、其子女に家庭的感情を懷かしめやうとして居るが、氏のそれは全然策略でない。否、自分自身既に小供の如き感情を抱いて、我家こそ世界中の最も幸福なる場所であると信じて居る。氏は時に依ると、獨りで家を

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

出る事がある。けれども其姿が再び門前に顕はれる時には、必ず何か入用な家具を手に携へて居る。或時は子息方の遊び道具、或時は臺所道具、或時は客間の装飾品。又或時は『これは丁度お前のによからうと思つて買つて來た。』などゝ云つて、夫人の爲に遠方から態々重い椅子を持つて歸られる事もある。それから又、氏の濃やかなる愛情の表彰として、一種の趣味を覺える話は、氏が折々夫人の手文庫や茶棚の抽出へ、菓子や果物を内證で入れて置く事がある。それとは知らず、夫人は留守居の裁縫に倦憊れて、何心なく手文庫などを開けて見ると、誰れが入れたか旨しさうな菓子包！夫人の退屈はそれと同時に解散し、嬉しさに更に新しい勇氣が出ると云ふ次第――『若い時分は善く此様な風の樂しみがありました。』と述懐らしい夫人の口振であつた。何と云ふしほらしの心であらうか。

○平等思想

佐々氏並びに夫人の性質は殆んど生得のものである。此間に育まれた子息達の性情は全く玉の如き美しさで、何處に一點の曇りもない。耳に入るものは常に優しい父母や兄弟の聲で、目に映るものは何時も平和な屋内の景色である。母君の曰く、『子供達は滅多に外へ遊びに出しませぬ。折々例の隅田へ獵遊びにやります位のもの。』――此所に世の中の子供達に比べて、著しい相違の點が此子息達にある事をお傳へしやう。優しき母君の愛兒は、或日鳥の巢のやうな家庭から出て、九段あたりの親屬の家へ赴いた。すると、其家の前を一人の按摩が杖に頼つてとぼ〱と歩いて居たが、どう方角を間違へたものやら、あらぬ方へずん〱と行かうとする。それを先刻から見て居た愛兒は、『あゝ危い』と云ふより早く、跣足の儘驅寄つて、其按摩の袖を抑へ、更に其手を引いて彼の行くべき方向へ親切に導いてやつたと云ふ。かくして、愛兒が以前の親屬の家へ歸つて來ると、其入口には波々と湯を取つた金盥、それに石鹸と手拭とが用意してある。愛兒い怪んで『おばさん、これでどうするのです』おばさん曰く、『どうするつて貴公、按摩の手なんぞ取つてやつて、薄汚い

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ぢやありませんか。さあ急速とお洗ひなさいよ。」——其日愛兒母君の許に歸り、不思議な顔して斯う尋ねた。

「母さん、按摩さんは何故汚いの？」

果然、佐々家の家庭には四海兄弟てふ眞實の平等思想が生立ちつゝあつたのである。夫人が苦心に苦心を重ねての敎育法は、此瞬間初めて賴母しい効果を見せたと云つても好い。これに就けても、哀むべきは、驕慢と羨望とより外に何物もなき家庭の兒童である。一は徒らに人間の等差を云ひ、他は自ら屈して人類同胞の本義を忘れる。心ある父母達は大に反省すべき點。

◎世の中には惡人なし

併し、佐々氏一家の温い愛情は、何時も只家内に斗り潜んで居ると云ふ譯ではない。時機に依ると、ではない、他に對しては絶えず一種の親切、博愛となつて其影を停めて居る。佐々氏並びに夫人の人間觀は、至極情深い同情に厚い方で、「世の中に惡人と云ふ者一人もなければ、從つて惡むべき人のあらう筈がない。只誠と情とで人に對する事。」これが此家の只一の信仰であつた。其證據としては別に擧げるにも及ばぬが、現に佐々氏の工場には、世の所謂惡人の流れ込みが頗る多い。他の官廳の役人の手に合はぬので解雇せられた輩は、皆な專賣局の工場へやつて來る。けれとも氏は敢てそれを拒まうとはせぬ。のみならず、二三ヶ月も其惡人なる者を使つて見た果は『あの男が何うして其樣に惡漢で有たらう。』と私が不思議の感を抱かれる事さへある。夫人の曰く、「今日下男の樣な者が此庭を彼方此方と働いて居るのを御覧でせう。あれは皆な役所の小使ですが、何卒日曜丈は休んで呉れと云つても承知せず。働いて御恩を返すより外に能のない人物ですからとさう申すのであります。」——成程世の中には惡人がない。少くのも佐々氏の前には惡人がないらしい。蓋し、彼等は大抵其德に打たれて、赤兒の如く本心に立歸るのである。

此間にあつて、夫人は又我夫に一歩も譲らず、孜々として始終周圍の人々を感化しつゝある。佐々家の家庭には、世間普通の女中と云ふものを置く必要がない。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

その一つの理由は召使を下等人間として殿様風を吹かさうと云ふ賤しい心根がない事で、他の一つは夫人が完全な一個の働き手として、能く家庭の事務に堪え得るからであらう。夫人の話では、今日迄にちよい〳〵家庭の助手を置いたが、其内の多くは親屬からの預り人であつた。尤も親屬からと云つても、立派に兩親のある金持の娘や何かは依頼に應せぬ。片親がないとか、家が貧しいとか、其様な風の故障のある子丈は、此方から進んでも世話してやる。と云ふ主義。「妾は此等の娘達を一度び預つた以上は、何んな事があつても感化し盡さねばおかぬ覺悟です。中には隨分良くない習慣を養つて居る子もありますか、併し妾は自分の氣に食はぬからとて、頭からがみ〳〵と叱りませぬ。」あゝお前が此様な風になつたとも、原因を糺すと善からぬ境遇に育つたからの事、無理はない。」と先づ同情を寄せて掛ります。」――進んで、夫人は現今二十五圓の月給取の細君となつて居る、以前の女中の物語をしたのである。其細君の夫が曾て重い病の床に仆れて了つて、大層家計の困難を惹起した時、夫人は其細君の勇氣を振ひ起さしめ、何如に不自由をしても借金ばかりはする事でないと忠告した。彼女は其後果してどんな風な生活をしたであらうか。夫の病氣が全快しての日の話を聞くに、彼女は夫の病床に看護しつゝある間、一日に只二錢宛の煮豆を自分の副食物となし、其他に一文の小使錢も使はずして、殘餘の金子は悉く夫の藥代と營養分供給の費に宛てたと云ふ。「妾はそれを聞いた時は手を取つて「よくやつた。」と心底から賞めました。そして褒美の品物を其人にやりました」と述べ了つて、其當時を想ひめぐらす如く、夫人の面色は少しく感情的に色を帶びて居た。

併し夫人の世話焼は單に自家の女中衆斗りの身の上に限つて居らぬ。今日では殆んど專賣局全體の月給取の細君、幾百人あるか知らぬが、大抵これ等の人々の家計に立入つて、月給額に應じた豫算表を調へてやられる。夫人の性質を知らぬ者は迷惑な關渉沙汰よと惡口するのもあるけれど、それは最初暫時の間で、夫人

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の強い感化力に逢つて、浮華無根底の精神に多少の改革的彩色が見えて來ると、それからは澤山な細君達、丸で親か姉でゝもあるやうに夫人を心から戀ひ慕つて來る。中には話好きの細君達が、つい心易立から屢々夫人を訪問するやうな事もあるが、其樣な時には夫人は眞面目になつて、『貴女方が斯うやつて遊びに來て下さるのは有難いが、最早お宅の冬仕度は出來て居るのですか。せねばならぬ仕事を打捨てゝ置く位ならば、何も時間を費して妾の家へ遊びに來る程の事はないではありませんか。』と眞額からきめ付ける。けれども客は決して腹立てぬ。自分で自分を良心の光に照し、若し惡かつたと思へば、其儘快く歸つて行く。

○家庭と黒板

記者は曾て小耳に挾んで居た。佐々家では晩餐後が一番に樂しい趣味深き時間であると。それは單に一家族が殘りなく顔を合はす事の出來ると云ふ理由ばかりでない。此家の子息達と女中衆には各自に一冊宛の手帳が渡されており、そして、子息達並びに女中衆は日

々自分の行つた事、手出しした事を正直にそれへ記付けて置かねばならぬ。さて晩餐の時刻が來て主人も女中も打交つての御馳走が濟むと、順を追つて彼等が手帳の記事を讀上げる。判官は無論父君で、其記事中に若し感ずべき點があればこれを賞めて賞品を與へ、厭ふべき所があればそれを説明して後來の戒めとする。斯くて各自の行ひに對する父君の判決が了ると、翌日小さな黒板（佐々家には準備してある）に其日の善行と善行者の名前とが掲げられる――如何にも面白い方法である。記者はこの話をして、『今日でも尚ほ實行して居られますか』と尋ねると、『少し結果に於て慊らぬ所が發見されたので、目下は丁度研究中であります。』との事であつた。

○『誠と情』

最後に於て、夫人は生れ乍らにして一種の社會主義者である事を不用意に表白した。『金子さへあれば、家丈は建てゝ見たいのですが、それにしても、近頃の金持や華族方の邸のやうに、高い塀を四方に繞らして、

「內部は誰にも見せぬ」と云ふ自分勝手な家なれば、一等そ建てぬが可で御座います。妾は心の合つた人同志が澤山集り、門も塀もない一つの大きな家と庭とを作らへて、共同に働き共同に遊ぶ事が出來たならば、どんなに愉快だらうと思ひます。」とて、更に其家の建築方、庭の模樣、遊歩場の設備などに就ての考へを話された。記者は夫人の心の向き方が著しく日本的でなく、何處か基督敎の感化を受けた、かの「愛」と云ふ字の化身の如く見えるので、不思議に思つて、其宗敎の有無を尋ねた。すると夫人は曰く、薄弱な者には宗敎は好いものとは思つて居ますが、妾は別に宗敎の名の付く程の宗敎を信じて居りませぬ。只「誠と情」これが、とりもなほさず妾の心で兩親から先天的にそゝぎ込まれたものと思はれます。」――思ふに夫人の父君母君は餘程の偉い人であつたに違ひない。それは立派な敎育者であつたものに相違なからう。

尙ほ一つ書き洩してはならぬ事がある。それは現今の笹々家には我が家庭雜誌の第一卷第二號が、七冊揃へて保存してあると云ふ事。其保存の目的は、他日七人の愛兒が悉く成人した時、彼等の父母はかくの如き家庭を作つて、かくの如き生活をして居たと云ふ事を其雜誌を讀んで知る事が出來るやう。――即ちかうであつた。其心情の如何に淸きよ。（淸山記）

△人々相互の關係に於て博愛を實行せんと思はゞ、須らく先づ家庭に於て之を學ばざるべからず。…………シルヴ井オ、ペリコ

福田英子著作　妾の半生涯

「世に罪深き人を問はゞ妾は實に其隨一ならん。齡人生の六分に達し、今にして過ぎ來し方を顧みれば、行ひし事として罪惡ならぬはなく、謀慮りし事として誤謬ならぬはなきぞかし。羞恥懺悔、次ぐに苦悶懊惱を以てす。妾が胸腑を充たすものは唯々是のみ……」これ實に著者が緒言の一節なり。思ふに我が日本最近の婦人にして、女史の如き波瀾多き生涯を送りしものは一人もあらざるべし。女史が其當初に於て、只我獨尊の情を最も強く保持せし丈、今日に於ては反比例に強く自己の弱きに氣付きたるなり。「妾の生涯」一篇實は達人の手になれる大小說なり。罪に始まりて改悛之に亞き、最後に一道の光明を認めて、眞理の爲に餘命を抛つ。眞に女史の生命や蘇生したりと云ふべし。啻に婦人のみと云はんや、人は皆な晩かれ早かれ、女史と同一の徑路に到達す。其主我的感情の分量、苦悶懊惱の分量に於ては姑く云はず、而も其落ち行く徑路は萬人一として變ぜざるなり。記者幸に同感の士の愛讀を冀む。（淸山）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

所謂婦女子の情

安藤兎毛喜

人はよく『ナニそれは婦女子の情だ。』『君は婦女子の情に流れてはいかん。』などと申しまして、兎角婦女子の情なる語は屡々私共の耳を打つのであります。然らば其婦女子の情なる語は如何に使用せられて居るかと申すと、之れはどうも輕蔑の意味や非難の意味に用ゐられて居る樣であつて、まだ私共はそれが稱讚の意味に用ゐられるのを聞かないのであります。然らば所謂婦女子の情は何が故に斯く輕蔑非難の意味に用ゐられるのでありませうか。私は之に就て二つ三つ考へて見ようと思ひます。

先づ第一には此語は永續せぬ事を意味します。何事も永續きをしない、即ち耐久性の乏しき情、一時的の情、移り易き情を意味して居る樣です。恰も幼兒が一時或る慾望を發して、夫を矢も楯もたまらぬ程にひどくねだりますかと思ふと、暫くの間にすつかりそれを忘れて仕舞ふ。丁度それに似て居ると云ふのであります。

第二には道理上の思慮分別が乏しいと云ふ事を意味します。一時目前の事物に心を打たれてはツと感動するが、其感動にはつまり理性の分子が甚だ乏しいとの意味であります。

第三には後々の結果を顧みない、利害得失をよし多少それに氣が付いても、それを顧みないとの意味があります。

即ち第一には足がない、第二には目がない、第三には慾がないとかう云ふ意味がある樣に考へるのであります。尙今一つ範圍を狹ばめて置くべき點は、此語は通例仁愛とか人情とかと云ふ部面に用ゐらるゝので、世を憤り人を怨むなどと云ふ方には餘り用ゐられない。例へば左程にもなき間柄の友人に泣き付かれて、金多少の迷惑を負擔するなどと云ふ時、他人は之を婦女子の情に流れたのだと評します。又相親める男女が一朝或利害上の事情の爲に袂を分たねばならぬ塲

合となりて、尙は其離別の情に耐えないで居るを見れば、其友人はすぐ「君は婦女子の情に流れて居ていかぬではないか。」と忠告するでせうが、人の事を立腹して居る人に君は婦女子の情に流れて居ると云ふものは通例少ない樣です。要するに、憎惡怨恨の情よりは、普通の可愛相又は氣の毒などの情を婦女子の情と申す樣ですから、私も亦其意味にて御話を致す。

　さてかく可愛相又は氣の毒との情をば、或事物を目擊したる瞬間に起すのは實際男子よりも婦女子の方が多いに違いない。且つかゝる時、かくして起りし情は兎角永續しないと云ふ事も、又利害得失を較量するの遑なき事も、又道理を辨別するの餘裕なき事も、前に述べた通り何れもそれに間違ひなきやうであります。そうすると所謂婦女子の情なるものは、別段之と云ふ程の價値もない情であつて、其輕蔑非難せらるゝのも强ち無理ではないやうに思はれます。果して然るか否や、婦女子諸君の御一考を煩はさねばなりませぬ。

　翻て考ふるに男子間に於て所謂婦女子の情なるものが輕蔑され非難さるゝ結果として、其之を有する男子は速かにそれを棄てよ改めよと勸告せらるゝのであります。無遠慮なる男子は隨分其友人を訪ねて其妻君が次の室に控へて居らるゝを知りつゝも、尙此婦女子の情云々の攻擊を口に出して、友人を忠告するやうな事がないでは有りません。かゝる場合、其妻君たる人亦友人の忠告を道理と思ひ、自分の夫の意氣地なきを殘念がりて、其友人(又其忠告を受けつゝある夫自身)と共に、所謂婦女子の情なるものは男子にしてもつまじきものよと思ひなさるゝ事もあるでありませう。かくて婦女子の情なる語中に含まるゝ輕蔑非難の意は、妻君自身が識らず知らずの間に之を承認せらるゝ事もあるでありませう。此時妻君一たび頭を回らして自問自答せらるゝを要す。婦女子の情は何故に爾く輕蔑非難すべきものなるかと。

　察するに男子が男子を忠告して君は婦女子の情に流れていかないと云ふのは、取りも直さず其樣な婦女子の情は君の心中より全然之を取棄てよと云ふのであり

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ます。顔面にコブができて其爲め外觀上甚だ醜いからして、速に其コブを切棄てよと云ふと同樣です。つまり婦女子の情を以て不必要のものと云ふのです。餘計なものと云ふのです。有害無益なものと云ふのです。婦女子諸君、私は改めて諸君に御尋ね致します。諸君は果してかく迄無禮に婦女子の情なる語を使用せられて、猶何等の侮辱を受けたりとも感じませんか。

私は思ひます。所謂婦女子の情をば、顔面上のコブの如く無用視して、之を取棄てしめんとするは大なる間違であらうと。そうして私は信じます。總ての情の中で、實は此婦女子の情程美はしい、尊敬すべき情は他に澤山はあるまいと。抑々婦女子の情は或意味に於て實に社會改革の第一の基礎をなすものでありまして、又總ての善き事も、此情と多少の關係をもたないものはありません。目前の或傷ましき事の爲に純潔優美なる心を打たれて、ハッと感動する其一時の感情、然り「可愛相に」又は「氣の毒な」と感ずる其一時の感情、ア、之れぞ之れ唯人類のみが天より賦與せられたる所の、最も貴き最も美はしき感情ではありませんか。孟子の所謂忍びざるの心は即ち此婦女子の情ではありませんか。之は決して顔面上のコブと譬ふべきものでなくして、寒き時に一枚の衣服と譬ふべきものです。寒天に薄き衣服一枚では成程物足らないでせうけれど、其一枚の衣服もなかつたらどうでせう。全くの裸體となるの外はありますまい。物足らぬと云ふ事は不必要だとの意味ではありません。其物足らぬ所の一枚の衣服は、實に不必要どころでなく、非常に必要物であります。所謂婦女子の情も亦之と同樣です。其永續性分別性又は利害打算の力（但し之はよきものとは云へぬが）が乏しいとならば、適當なる方法にて之を附加すれば可いのです。恰も一枚の衣服のみにては寒を凌ぐに足らないですから、上衣や羽織やを重着すべきと一樣です。若し其一枚の下衣のみにては寒を凌ぐに足らないからとて、一枚の下衣は不必要なり、速に之を棄て丶裸體となれよと云ふ人あらば、誰とて其言の暴なるに驚かぬものはありますまい。今婦女子の情

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

は耐久性分別性に乏しいからとて、直に人類より之を取棄てしめようとするは、即ち石同斷、全くわからぬ沙汰ではありますまいか。人に婦女子の情あるを見たならば、其人こそ胸中に名玉を藏して居るのだと思つて、適當に之を發育せしめ、其美情の永續すべき方法思慮分別の分子を混和する方法を計ること、御同前人類同志の親切ではありませんか。忍びざるの心なきものは人として人にあらず。私は申します。婦女子の情なきものは男子にして男子にあらずと。試に思へ世の中が何事によらず、氣の毒とか可愛相とか感ずるは卑むべく恥づべき婦女子の情なり、との考をもつ所の人々のみであつたらうでありませう。おまけに婦女子までが此思想を承認して毫も之に反抗をなさないと云ふ事になつたらはどうでせう。男子と婦女子が恐らくは相率ゐて、冷たき人情的化石となり了らんは極めて見易き道理でありませんか。私は動もすれば世の婦女子諸君が此點に於て自ら輕んせらるゝ傾きあるを見て、深く遺憾に思うのであります。

ア、婦女子の情は尊むべし。此可愛相の感、氣の毒の念が、吾人々類の心中に一片の光明を放ち、社會に温度を供しつゝあれはこそ、人は其御蔭で禽獸の群にも入らず、人らしき品位が保たれて居るのです。實にかの貧者弱者に對する同情と云ふものなども、此情を外にして他より湧出すべき泉をもたないのであります。社會の改革亦實に忍びさるの情、婦女子の情に熱せられて其基礎を築くのです。

男子は外に出でゝ浮世の風にもまれ、荒々しき仕事を引受けて行くものではありますが、さりとて其心までも全然荒らくれて、此優しき尊むべき婦女子の情をもたぬ樣では、それは眞の男らしき男と云ふべきものではありますまい。又かゝる男計りであつたなら、此世の中と云ふものは、一日も持るものではありません。荒い計りが男子の能ではありません。一方には強い心が必要であらうが、しかし又一方には是非此婦女子の情が必要です。勿論之に適當の理性を加味することは、御同前に努むべき所でありますが、假りにも之を排斥すべきものではありません。今はせち辛き世の中にて、此尊むべき人情は次第に所謂婦女子の情の名の下に、輕蔑侮辱の意を附與せられて迫害を受けつゝあるのです。見よ、十六七より十前後までの婦人は最も此美はしき情に富んで居らるゝですが浮世の風波は何時迄も若き折りの美はしき情を保たしめないのであ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ります。三十四十と次第に同情心が乏くなり、中には五十六十となつて、私心私慾の權化とも見るべき、慾張婆さんが出來るのです。否現時の社會組織は花の如く玉の如き乙女をかの憎むべき慾張婆さんと仕立て上げねば止まぬのです。慾がなくては、自分が立つて行かぬ今の世の有樣ですから、慾張婆の出來るので全く止むを得ぬ事と思ひます。今や人々は實に自己の此尊むべき情がないのを恥ぢとは思はず、却てかゝる情あるものを笑ふのです。瘋癲病院の患者が普通の人を指して狂人愚人と罵るのと、其淺ましさに於て何程の差がありませうか。

それでありますと、吾等は儼かに此人道擁護の任務に當りて、理想實現の爲に努力せねばなりませぬ。道義發展の爲に努力せねばなりませぬ。主義存立の爲に努力せねばなりませぬ。婦女子諸君、かの冷刻にして輕薄なる者流の言に迷はさるゝなく、人道の爲に自ら大に重んせられんことを望むのであります。

◉木の葉はナゼ紅葉しますか

秋、植物の葉の紅葉するのは、葉の内にアントシヤンと云ふ物が出來る爲めです。此のアントシヤンは春芽の出る時も一時現はれますが、それは外の物に變つて再び秋になつて葉の内に出來、見事な紅葉として自然を飾ります。しかし此のアントシヤンは濕氣が少くて寒冷になると多く出來ますから、早く寒くなつて濕氣の少い東北地方及北海道の紅葉は殊に見事であります。

さてついでに秋植物の葉が黄色になる譯けも申して置きます。アレは御存じの通り植物の葉の中には葉綠質と申しまして綠色の少さいく粒があります。勿論此の爲めに葉が綠色に見えるので御座いまして、これが元來、黄と青との二色の物質が混合されて成つて居ると今日では確められてあるのです。で、是が枯れますと青は消へるが黄は其の儘乾きついてしまいます。それで秋に木の葉が黄色になるのは、葉綠素が枯れるのだと申すことが出來るのです

◉秋はナゼ木の葉が落ちますか

まづ考へて御覧なさい、寒氣の爲めには彼の柔い葉でなく、丈夫な枝でさへ寒氣の爲めに枯れる位ゐですもの、若しあの葉が落ちなかつたらどんなにヒドクなるか知れません。それからあのやうな廣い葉が冬中あつては、雪に覆はれた重量で枝迄折れます。そこでもう冬にならうと云ふ時分には夏中貯へた養分を葉の中から少しも殘らず幹へ移してしまひ、葉の附いて居る處には離層と云ふ者をこしらへて何時散つても差支へぬやうにします。そこで一陣の秋風に、紅葉も黄葉もひーら〳〵と。それなら松や杉はなぜ葉を落しませぬか、アレは葉の性質が通常のと違ひまして、寒氣が來ても痛傷ませぬやうに組織して居ますからで……さて寒氣の爲めに葉が落る證據は熱帶地方の植物は四時青々として繁つて居ます。（二葉）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

サラドの話

サラドとは野菜や肉の類へ、油、酢、芥子などの藥味を加へて調理した食物です。野菜は生で用ふるものもあり、又一度煮てから用ふるものもありますが、生の方がサラドの特色です。ワツトの詩にも「生で食ふ菜をサラドと名づく」とありまして、十七世紀の頃にも既にさう云はれたものです。又青物の内最も多く用ゐらるゝものは萵苣の類で、萵苣はサラドの基礎であると云ふてもよい位です。左れば我國の青物屋がサラドと云へば必ず萵苣の事だと合點して居るのも、強ち無理ではありません。

日本にも近頃多くの洋食通が出來ましたが、サラドの價値と趣味を解した人は比較的に少い樣に見えます。多くの人は之を以て一種變挺な食品と考へ、大なる正餐に於て之を缺きましても、敢て不足を感せぬ樣に見えます。佛蘭西伊太利の人はサラドを以て最も重要なる食品の一つとし、殆んど毎日之を食べるさうですが、英米の人は左まで之を好まぬ樣です。彼等がサラドを常食とするを嫌ふ理由は、第一之が衛生に害ありと云ふ事、第二其調理法が困難にして面倒なと云ふ事、第三其價高くして之を常用するに不經濟であると云ふ事、此三つの點でありましよう。

併しながら私は之と正反對の理由に據つて、大にサラド辨護の任に衝りたいのです。第一何故サラドが衛生の害になるかと問へば、其中に多量の消化し難き脂肪を含むと云ふ事と、野菜の生食は胃に良くないと云ふの二つに歸します。元來脂肪と云ふものは甚だ必要な滋養物であつて、特にサラダ油(橄欖油)の如き美味なものは最も食料に適したる脂肪でありますが、唯之が消化し難いと云ふので、汎く食料とするに耐えません。然るにサラドに含む脂肪は如何なる狀態であるかと云ふに其調理法則ち乳化法は、恰も消化機能の如き作用を以て油の分子を細分し、既に半以上消化したるものと變じます。尤其調理法には多少の注意を要しますが、適當の方法によつて作られたサラドの油は

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

決して有害でないのみか、生菜の醗酵を防止し、驅風の効能ある、極めて有益な食品と言ふべきものです。

次に青物の生食が胃を害すると言ふは、主として咀嚼の不充分な事に因るので、サラドを食べるには決して急いで呑み込んではなりません。若しも十分に噛み砕いて食べるならば少しも消化器に害なく、却つて左に述べる様な利益があります。

野菜類は澱粉砂糖など直接に人體の營養を充たすもの丶外多量の鹽類（乾燥したる青物は二十三％の鹽類より成り其内にも曹達鹽の少量と加里鹽の大量とを）含んで居ります。此鹽類は血中に在る鹽類と酷似したもので、青物が人間に必要なのは之によつて間接に營養を助けるからです。彼の長期の航海者や遠征隊の間に行はる丶スコルヴイー（壞血病）と名づくる恐ろし病の原因は、主として生菜供給の不足に在るのです。斯の如く必要なる青物も、他の調理法によつて之を煮ますれば、多量の鹽分が溶出て仕舞ます。然るに之を生食して貴重なる鹽類の全體を攝取せしむるは、實にサラドが獨專の長所と云ふべきものです。

第二、サラドの製法が極めてむづかしいと云ふに答へましよう。成程これには多少面倒な點もあり、又時として失敗する事もありますが、それは調理法の原理と手順を十分に了解せぬ人の陥る過であつて、少しく心ある人の手には容易く出來る事です。前號で讀者のお尋ねに答へて記して置きましたマヨチーズ・ソースの様な時間と手數のか丶るものを、スワ食時と云ふ間際に思ひ付いては、到底滿足に出來ませんが、一日の内最も閑な時を見計らひ、一度に數回分を作つて置くは何の雜作もない事で、時間と代償の上に於て至極經濟になります。

第三、サラドを以て一種贅澤な食物であると思ふは、其材料を撰ぶに不注意な人の考です。喩へば小人數の家庭に於てチキン・サラドを作らんと思ひ立ち、一羽の鷄と數株のセレリ菜オリーヴ漬等、悉く料理番の命令に服從し、すべての材料を新たに買求めるとせば、それは非常に贅澤な事になりましよう。併しながら

サラドの材料と云ふものは、本で讀んだり人から習ふた通りの品物を一々調へるには及びません。一度料理して食べた魚や肉の餘りでも、又野菜の殘り物でも、臨機應變に利用すればよいのです。現にチキン・サラドを例に取つて申しますれば、一日ボイル・チキン又はロース・チキンとして食卓に上つた鷄の殘りが、其次はコールド・チキンに成つて献立に現はれ、又其次にはサラドの材料となり、尚其餘りの骨の間から細かき肉片を摘取りハアシやコロケトの様なものにもなります。又之に取合せる野菜も强ち萵苣やセレリの様な生菜に限らず、煮たる豆、芋、キャベーヂなどの殘り物でも之を都合よく調和させれば宜しい。魚のサラドを作るにも、初めから之が爲に新しき魚を買はず、刺身や鹽燒の殘りでも差支はありません。又酸ッぱくて食べられぬ様な林檎でもあらば、之からでも立派なサラドの一鉢が出來るのです。

斯の如くサラドの材料は、萵苣、セレリ、球菜、葱、芥子菜、菠薐菜、蕃茄、胡瓜、茸類、火焰華、馬鈴藷、豆の類。又すべての肉類、介魚類、卵、チース、胡桃果實等、殆んど際限がありませんが、多くのサラドの基礎になるのは萵苣であります。故に萵苣の使用法に就て少しくお話して置きます。

萵苣は一年中何時でも得らるゝ生菜でありますが、其内にも三月から十月頃までが最も好時節です。之に縮緬苣菜、赤萵苣、球萵苣などの種類があつて、其嗜好は人々によつて違ひますが、何にしても若くして新鮮しいのでなければなりません。該日に用ふる分は朝早くか又は前日の夕方に採り涼しい處に貯へて置きます。球萵苣の内部に堅く縮つて白き部分は、之を洗はずに其儘で用ゐても宜しいが、少しでも塵が懸つたり蟲が巣ぐふた様な疑があらば、其葉を一枚つゝ剝がし、裏表を丁寧に檢査し、二度も三度も冷水で流はねばなりません。流ふてから籠に入れて風通しのよい處に數時間釣るして乾かします。若し急くならば之を清淨なる布片に包み輕く拭ふて水氣を吸ひ取つても宜しい。採取の後時を經てしなだれたのも之を冷水か氷水

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の中へ姑らく漬けて置けば硬くなります。兎に角サラドに用ふる生菜は歯應のある程新らしくなければならず、又之に水氣があつてはソースが能く附きません故十分に乾かすのが必要です。萵苣の汁は鐵と化合して味を變ずる性質があります故、之を普通のナイフで切つてはいけません。成るべくは銀のかゝつたナイフか、それよりも手を以て適宜の大さに割くのが尙良き方法です。

前號料理の栞へ載せて置きましたマヨチーズの外に、サラド・ソースの製法二三を茲に記して見ましよう。

第一。煉芥子一小匙　砂糖一小匙　鹽半小匙　胡椒四分ノ一小匙　番椒一つまみ　サラド油二大匙　牛乳四大匙　酢二大匙

此内最初の五品をよく交せ、之に數滴つゝ油をたらし、其度毎に十分かき交せ、次に牛乳と酢を加ふるにも極少しつゝ入れます。若しも急いで餘計つゝ加ふるか、交せ樣が足らぬ時は油と水分と分解して大失敗に陥ります。此ソースがうまく出來たら恰もクリームの稠度になる筈です。

第二。鶏卵三箇を割りバタと酢を半小碗づゝ鹽一小匙煉芥子一小匙胡椒及び番椒少々、これだけをよくかき交せつゝ二重鍋で湯煎にし、少しく濃厚になるまで煮てから冷して置きます。

第三。鶏卵二箇を二十分間煮ぬき、其黄味を取つて皿に入れ、木匙の背を以て丁寧にすりつぶし、煉芥子一小匙砂糖一小匙鹽半小匙胡椒少々を加へ、其上へサラド油二大匙を徐々に滴らし、充分混和してから酢又はレモン汁(青みかん又は橙の酸にてもよし)四大匙を加へます。

サラドの材料と之にかけるソースの用意が出來ても今や食膳に出すと云ふ直ぐ間際でなければ、決して之を交せ合してはなりません。前以て拵へ置きのサラドには多量の水分が出來、ソースが生菜から遊離して皿の底に落ち、甚だ見苦しく且つ不味きものとなるは如何なる理由であらうか、私は是迄唯菜の切口から水が出て來る事とのみ思ふて居ましたが、前號にある二葉君の「草菜にはなぜ露が多いか」と云ふお話を聞き、或

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

は此サラドの葉が其根を離れてからも絶えず水蒸氣を發散し、ソースに包まれて後多くの水分を生ずるのではないかと思ひます。

サラドを交せ合して皿に盛るには、其材料の形と色の配合に注意せねばなりません。喩へばキャベーチ菠薐菜の樣なものは細かく刻み、セレリ、アスパラガス莢豆などは五分位の長さに切り、鷄冷肉ハム馬鈴薯火焔菜などは薄く剝ぐか又は骰子の形に切ります。色の配合も亦ビートの赤色と卵の黄色を交々配列し、之に萵苣の心を以て純白を點ずるなど、各自分の趣味によりて種々なる意匠を凝らし、啻に食べて旨きのみならず。見ても目を樂ませる樣にするが肝要です。

以上述べた如く、サラドに用ふる材料は食品中すべての部類を網羅したもので、之にパンと水を添へますれば人體に必要なすべての營養分を此一種の料理から容易に得られます。故に私は世の家庭料理に志ざす人々がサラドに關し英米人の俗に從はず、佛蘭西伊太利の風に倣ひ、此理想的の食物を作る事を研究し、屢之を其献立に加へられん事を希望致します。（緑亭主人述）

芝居を見し記者の雜感

○劇化せし「不如歸」○劇の改良○觀客の下品なる趣味○俳優の藝人魂性○家庭と觀劇

○十月中の一日、余はある人の案内にて出京座の「不如歸」を見る。久しく芝居見物には縁遠かりし爲め、其目は誠に物珍らしく、且感ずる所も亦從つて深甚なりし。

○「不如歸」（蘆花作）其物の眞價は爰にありし。余は後れて行きしかば、其男女主人公の不和なる時代、幸福なる時代、光明なる時代を見るの機を逸し、見初めてからは全然兩人に對する暗黑時代にして、悲愁の事のみなりき。結末に至る迄に強く心を打ちしは、濱岸の場にて「浪子」が不幸なる身の境遇を嘆き、肺患の爲めに浮世をはかなみ、樂しき夢の紀念なりける岩に腰打掛けて、往時を追想したりし時、彼女は世にも憐なる態度をして、「樂みも束の間なりき。どうして妾のやうな不幸な者が、此世の中へ生れて來たのであらう。」と述獨語し、終に有耶無耶の内に大海に吞まれんとしたる處なり。哀れにして情深く、人生が如何に悲しき處なるかを痛切に感得せしめぬ。こゝに作者の伎倆として認むべきは、彼は、この「浪子」を殺さずして宣教師に助けらめ、悲しき世にも尚ほ一卷のバイブルのある事を知らしめし事なり。彼女はこれに依つて初めて胸底に平和を得たり。人生の全く捨つべきにあらぬ事を自覺せり。

○それに（順序が前後すれど）「浪子」が一時離縁となりて實家へ歸りし時の光景、これまた悲慘の極なるべし。軍笥長持が玄關に積んであり、家族が出て迎ふ。彼女は何も知らずに歸り來て、吃驚仰天する處、滿腔の同情を灑がしむるの價値存す。又「浪子」の夫「武男」が其母なる人の會

思想を鼓し、「良くない世間の法なら宜しく壊してしまふべし。」と云ふ所は新思想を持つ者の心を強うし、「浪子」永眠の場は人の邪念を去らしむるに至りたり。特に「千々岩」を戰場にて「武雄」に出會せしめ、既往の非行を懺悔させたる處は、バイブルの夫と同じく作者の人格の高きを説明しぬ。既にして余も亦思へり、假令人間が如何程に慾張るとも、いざ死ぬると云ふ刹那となれば、邪念は恐らく掃除さるゝべし。未來のありてこそ私慾も起れ、萬事窮して尚ほそれに打勝つ程の勇氣は蓋し千萬なかるべけん。即ち、此瞬間こそ、すべての人は人間の存外強からざる事を自覺する期なり。――斯くの如く觀來りて、余は何となく心の汚れの去りたるを覺えぬ。人生の面影を濃やかに味ひぬ。少くとも余等の如き明治の青年をして其嗜好に投ぜしめぬ。

又最後に「武男」が「浪子」の墓に詣でゝ泣ける時、岳父出で來りて「お前の前途は尚ほ遼遠だ」と云ふ所大にこたえたり。こゝに於て前の悲哀は一週轉して、人生戰鬪なり。人は死ぬる迄力行精進せざるべからずと云ふ意味を悟らしめぬ。

○藝に至りては不滿の廉甚だ多し。役者は皆な舊役者なれば、今様に萬事を演ぜんとするは、描き上に描きの疵を掛けるが如し。劇の改良に就ては、此日深く余の心を打ちたり。先づ立役、女形の間を區別するを要す。男が女になると云ふ事實にあり得べからず。（男が女になるこそ面白きなりと云ふ者あれど、そは寧ろ變形なり、自然にあらず）第一男は如何に其形を優しく作るとも、體質上に於てこれを免さず、況んや其聲色をや。男が女に紛するは洵に非科學的の極也。

○第二にその時間を短縮する事なり。日本の芝居はだら〳〵として長く、折角得たる美感もそれが爲に消え去るの虞なきにあらず。（退屈して）尤も時間が長かられば筋の通らぬ作もあらんが、何もなが〳〵と場面を引張る丈が演劇の能にはあらず。最も純粹にして、細かき節にかけたる處を一寸見せ、斯くて觀客の美感に訴へて、「あゝ人生だなあ。」と叫ばしむる、これ演劇の急所にはあらざるか。この刹那、人生は實に一種の「不可思議」にして、而も其間に神の大意がほのめく如し。即ち余等の日々の實際想は此瞬間に至りて忽ち其影を潜め、何となく恍惚たる境地に心を運び去らるゝなり。これ實に美感の瞬間なり。

○これと同時に觀客側の改良も必要なり。今日の芝居は實に浮華、奢侈、淫靡のバチルスを以て滿ち居れり。美しい着物を來てしやな〳〵と貴女の如き化粧をなし、不斷に食物を胃につめ込み、劇場への送り迎へは車を以てし、斯くしてお定りの愁嘆場に申合したやうに出る涙をハンケチにて堰止める事を、芝居見物の義務の如くに心得居れる婦人方の多きには實際驚くの外はあらじ。又下等卑俗の趣味を持てる輩は、此劇中に於て顯はれたる人生の眞想、但しは運命の不可思議等に打たるゝ事なく、單に卑きに感情の奴隷となり、つまらぬ場合にやんやの喝采をなして他の見物人に迷惑を與らすが如き往々ある例なり。假令へば戰の場に於て、一人の日本兵が多くの露西亞兵に取捲かれたる時、其日兵が忽ち千人力の勇氣（？）を振つて、群る露兵を蜘蛛の巣を散らせし如くに追拂へば、彼等はこゝぞとて小兒の如くに手を打つて喜ぶなり。如何に其趣味の程度の下品なる事よ。余等は不幸にして、斯る譯もなきこと、假し此千人力が事實なりとするも、そは只「力の強き人」を見たりと思ふのみにて、人生其物には何等の情懷をも寄する能はず。其兵士が露人なるも將た又日人なるも、さる事には何の頓着も余に於てはなきなり。

○第三に俳優の持てる舊思想を嘲りたし。彼等は所謂藝人魂性もて、觀

客に對して一段人格の卑きもの〻如く、ぺこ〳〵と頭を下げ、「御贔負（こひいき）々々に」と云ふ。何故に俳優は左程觀客の贔負を仰ぐべき必要ありや。己れは貴き藝術に從事せる、神聖なる職に居るものならずや。何も乞食の如く哀願して遊客の來觀を求めずともの事。觀客は日々實際界の俗務につかれたる人の集りにして、彼等は俳優を介して靈の糧を得、しばし精神界の多きは遊ばんと欲して來るものなれば、俳優自身は宜しく此心意氣を以て、自ら高く持し、堂々として舞臺の上に立たざるべからず。

●特に憫笑すべきは「名題（なだい）びろめ」と云ふ習法なり。これは俳優がそれ〴〵素顔（すがほ）にて舞臺に出で、低身叩頭して只管例の「御贔負」を繰返へすもの、宛然河原乞食の如し　彼等の内に多少新智識に觸れたる青年はあり乍ら、矢張この賤しき習慣を破り得ず、且つや、浮氣なる婦人の歡心を買はんが爲めに心にもなき卑劣の陋習を敢て演ずるなり。「名題びろめ」これ抑も何物ぞや。藝が宜ければ自然に名題は高くなるにあらずや。地位人の物藝は本人のものなり。假令團十郎の後を繼ぎたりとて、其人の藝が俄に上達するものにあらざる事は、直に見易き道理なり。彼等の口上を聞くに、「△△は大變の名優なりし故、△△の後を繼ぐは容易の業にあらず、未熟者が跡を繼げば家の汚れなり。」と。これが東京中央の劇場にて聞くの言なるか。△△は成程名優なりしならむ。而も、△△が名優なりしとて、何も其役を繼がずとも宜かるべし。家の汚れとなる位ならば、好んで未熟者を以て其後釜へ据えずともの事なり。團十郎と云ふ名が名優ならぬが如く、假令杢兵衛と云ふ名の役者にても、藝に巧みなれば大名優ともなり得るにあらずや。また、觀客中に平生所謂贔負を蒙り居れる「旦那」「奥樣」を見る時は、彼等は慌てふためいて「御挨拶」に來る。挨拶に來るは宜しからんが、この挨拶は賤しき挨拶なり。御祝儀頂戴の挨拶なり。この挨拶には旦那奥樣の機嫌をとり、兼て他の見物人に對する虛榮心の滿足を得せしめんとする底意（そこい）あり。陋劣と謂つべきかな。

●最後に一言述べたきは芝居と家庭の關係なり。余は今日の家庭に向つて、特に今日の芝居見物を勸むるの勇氣はなしと雖も、少くとも理想的には夙に其勇氣を持つ所の論者の一人なり。彼の芝居見物を以て全然不可となすが如く頑冥なる家庭が、今日に於ても尙ほ往々にして存在するを見るは、余等の甚だ憤慨に堪へざる所。か〻る家庭に育てられたる兒童の後來ば、こ〻に思ひやられて憂慮に堪へず。演劇は實に人生の縮圖なり。そこに動物性と靈性との格鬪あり。そこに不可思議の運命あり、そこに人間の向上的光明あり、そこに人間の絶望的悲哀あり。苟くも人が一個の機械として生れたるに非らざるを自覺する以上、人は一日も藝術なくして生活する事を得ざるなり。只兒童を劇場に伴ふの一段に至りては、これ少しく考慮を要す。何となれば、彼等には未だ人生に對して情愫を抱く丈の能力發達せず、伴ふとも其甲斐なければはなり。（濟山）

Leisure without literature is death.

文學なき閑は死なり。

Lifeless, faultless.

命なければ過ちなし。

銃　獵

妾丈は完全無缺の素人銃獵家、終日山野を驅廻つて、終に何の獲物もなし。歸りの汽車中に欣然と煙草をふかし乍らの獨言、

「あたりはしなかつたが、死に角鳥共を思ふ樣吃驚（びつくり）させてはやつたわい。」

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

鑛毒被害地

見舞の記

小林やす子

◎渡良瀬川といふ名は、自分が幼少い時から、深く〳〵頭腦に浸入つた名で、其川に流るゝ毒水は、黒く渦巻きて、其底には恐ろしい毒蛇鰐鮫などが澤山に居て、風雨の夜、其毒蛇鰐鮫が陸へ上つて來て、可愛い犬や猫を取つて喰ひ、果は人間の生血まで吸つて了つて、仕舞には此世界の生きてゐる動物、茂つてゐる植物を、悉く殺し盡して了ふものと思つてゐたのです。而して渡良瀬川は栃木縣、自分の家は、茨城縣の下館であるから、決して遠く距たつてはゐない。若しも其毒蛇や鰐鮫が猛威を揮ふとすれば、外の土地よりも、自分の國はいの一番に其害を被むるものと、深く恐怖を抱いて、母親の寢物語りに聞いた安達が原の黒塚の鬼よりも、まだ〳〵恐ろしいものに思つてゐたのです。

◎其後兩親や兄に伴はれて、東京へ移り住むことゝなつてから、段々物心が付くに從ひ、新聞などを讀むたびに、渡良瀬川の鑛毒に關する記事は、何時も早く目に着いて、其土地に住む人々の難儀は、初め幼少い頭腦に彫り付けた毒蛇の叢、鰐鮫の淵に住んでゐるよりも、尚更ら恐ろしい事であらうと、深く同情を持つてゐました。

◎平民新聞との關係から、幸德さんや絲兄の堺さんなどの紹介で、田中正造翁に面會して、詳しく鑛毒被害地の模様を聞いてからは、其同情がいよ〳〵深くなつて、お氣の毒の事に思つてゐる矢先き、幸德夫人から被害地を視察に行かうといふお誘引を受け、十月十七日雨を冒して午前六時五分新宿發の滊車で出立しました。

◎一行は自分共の外、黒澤氏初め八人の殿方で、古河驛に着いたのは、午前八時五十分、熱心なる田中翁は被害民の諸氏と、疾くより此所に待合はせ、喜んで一行を迎へられ、其から殿方は徒歩、自分共は女の足弱、殊に雨中であるから、迚も被害地までは歩かれぬとの事に、勧められるまゝ心ならずも人力車を雇ふことになりました。

◎三國橋とて、栃木茨城埼玉の境に跨がつてゐる橋の處まで來た時、足を停めて田中翁の熱誠な溢ぎたる談話あり、其お話しに依れば、此所に流れ寄れる渡良瀬川と黒川とは、以前は同じ水深を有し、殊に渡良瀬川の舟楫の便利は思川以上にあり、附近の釀酒店など極めて繁昌を極めてゐたが、一たび鑛毒といへる寃の神に魅はれてよりは、鑛屑と沙との爲めに底を埋められて、今では思川の水深一丈三尺もあるに引代え、渡良瀬川は僅かに四尺五寸、辛ふじて小舟を通はす位で、四五十石積の舟は通路全く絶えてゐるとの事、恐るべき鑛毒の影響は、交通機關をも妨げてゐるのです。

◎其から被害地の標本ともいふべき例の谷中村に着きました。談話に聞くと目で見るとは却々の相違で、實際想像以上の慘状を現はして居るのに先立つものは涙でした。連年の水害――言ふまでもなく鑛毒防禦の堤防を築かぬ――結果の爲めに、千五百町歩の沃土は空しく葬むられて、滿目渺々たる一面の泥沼、村民は家を失ひ田畑を失ひ、兄弟妻子離散の憂目にさへ逢ふてゐるのです。思へば世間は豐年を祝ひ神の恵みを謳つてゐるのに、此所の人々は、饑に泣き寒さに泣いて、世に神佛の力はない事かと嘆き悲んでゐるのです。折から雨は一しきり力を加へて、冷やかなる沼の面を撲ちました。

◎一行皆な黯然として聲を呑んでゐるところへ、髮の毛おどろに、垢づきたる衣を纏ひし一人の老婆が、蹣跚ひ〳〵一行の前へ歩み來て幾回か頭を下げ「能くお見舞に御出で下さいました」と泣くのです。而して「我等は今日一日を先づ送つても明日は如何なることやら判りませぬ、米は愚か粟も稗もなく、味噌醤油など菜にしたくも口に入らず、只死ぬのを待つてゐるばかりでござります」といふ、嗚呼哀れなる老ひたる人よ、永久なる神の力はつひに御身達の不幸を救ひたまふは定なれど、目あたりの難儀、差當りての困窮を奈何にすべき、政を爲さる方々は眠りては在はす、知らずして過ぎたまふか、自分は始終涙を禁め得なんだ。幸德夫人を見れば、全く俯視きて、頭髮の毛のみ搖いでゐる。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

獨哀

石川生

今夜社中皆出でゝ在らず、僕獨り燈下に座して形影相對す。微醉醒め來つて多少の哀情なきを得ず。

タマにはコンナ事もある也。

十月二十一日　川

▲廿二日の朝は小雨が降つた、濕つぽい机に向つて暫し默想に入りし時、一葉の端書が机上に落ちた、乃ち手に取りて見るに右の如く認めてある。

▲川とは誰ぞ、其筆の蹟は直ちに予をして其人を想はしめた、即ち川とは讀者諸君と既に甚だ相親しき我が枯川兄である。此の夏の末つかた夫人道子の君の死を送つた枯川兄である。

▲予は彼が、曾て平民新聞紙上の『晩夏初秋の感』に於て、「骨肉の死に遭うて酒を被つて鬱を遣ると云ふが如き、客氣ある疎狂の人では無い」と言ふを聞いては深く感服したれども、彼が「又、最愛の永別を悲んで惆悵として自ら傷ると云ふが如き、單純なる家庭の人でも無い」と言ふたには、多少不滿の感を起さなくも無かつた。殊に彼が妻君の死後に於て、假令専心社會主義と平民新聞との爲めに盡精するとは言へ、彼女の事など殆んど念頭に浮びもせぬ有様なるを見ては、予は心で「餘り無情なり。」と彼を罵しるが如く想ふたのも度々であつた。

▲されど予の想像は過つた。ア、彼れも「哀情なきを得ざりけるよ。徒らに死は榮光に覺むるの道と言ふ勿れ。閉ぢたる彼女の目より落ちし熱き涙は、今猶ほ彼が心臓の奥底に注がれてあるなり。そして紛々たる俗事に離れて、靜かに想ひを天涯に馳するの時、其胸底湧くが如く哀感の起るを禁せぬのである。

▲假令彼は「社會を以て我が家庭となす。」と言ふも、彼れが彼女と共に「社會を家庭となす」を得ざるに至

りしは、如何に人をして悲愁を感せしむるぞ。假令彼女の死が、彼れの「運動を自由ならしむる」とも、世は彼れの元氣の源泉たりし麗はしきホームを喪ふたことを悲まずには居られぬ。

▲憂きに枯川兄が縲絏の身でありし時、悲哀の中にも多少彼女を慰むべき或る事件が起つた。予は此機を利用して彼女を獄中なる兄に會はしめば、餘り悲哀を感せしめざるを得べしと思ふた。そして「決して泣いては善けません。」と念を推し、「必ず泣きません。」との答を得て、彼女を巣鴨監獄に伴ふた。面會を終へて歸へるさに彼女は言く、「戸が開いて、顔を見た時は、思はず胸に迫つて泣きたくなりましたが、アナタとの約束を思ふて、之れではならぬと氣を取り直しました。」と言葉は鮮やかに今我が耳に遺つて居る。ア丶彼の優しかりし道子夫人、予は敬慕に堪え得ぬのである。

▲そぼふる長雨のはる丶も待たで、梢にしぼむ花の姿平民新聞創業以來の不如意なる彼が家計は、病める彼女をして醫藥をこそ缺け貧苦を免る丶能はざらしめ、剩さへ災厄は襲ふて最愛の良人を彼女より奪ひ去り、久しく別離の悲愁を忍び盡して僅かに榮えある良人の笑を迎へし時は、早や既に死の闇黒が彼女に纏ふて居たのである。

▲ア丶枯川兄、兄今は「獨り座」するの身となりぬ。唯だ「形影相對す」るの身となりぬ。悲むべき哉彼の美しく、優さしく、氣高かりし道子夫人はいづこぞやア丶いづこぞや。

▲先頃枯兄から送り賜はつた寫眞が机上にある。愛犬を間に挾んで、右に夫人が腰掛けて、左に枯兄が立つて居る。「今は夢なる我が鎌倉生活の一頁」とは枯兄自ら此寫眞の裏に記せし文字である。

金魚の水

細君——竹や、坊やの金魚に新しい水を入れておやりかい。

女中——い丶え奥樣、まだ前のを皆な飲んでしまひませんから。

中年

玉子——平岡の奥樣さんて、まあどうでせう。五十と云ふお年ご以て、中年ですとさ。

金子——どうせ百迄もお生きなさる積りなのでせうよ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

家庭通信　（投稿歡迎）

兵士と故園

午山生

余は九月某日の午後の上り列車にて靜岡へ行く爲め某驛から乘車した。其室には伊豆の修善寺へ行く赤十字社服を着た病傷兵士が乘つて居た。非戰主義の余は一目彼等を見て一種の感に打たれた。佗ひなしかも知られど、彼等の顔には一種の憂ひを帶びて居る。併し余は余の誤りで無くて、彼等は確に憂を抱いて居ると思ふ。彼等は戰場に臨みては鬼神のやうであるが、實際彼等は鬼神でも何でも無い。人として生れて居る。今や身は負傷の爲め、或は病の爲めなやみて、所謂戰友と共に溫泉場へ行くのである。この行にして彼等の父母と共にか、或は妻子と共ならばとの感を起しはすまいか。彼等も人である、胸中涙のない筈はあるまい。

余はいろ／＼と想像に馳せて、遂に彼等と一言も交へず、十餘哩を過ぎた。只余のみでなく、他の乘客の多くも談の戰爭に及ぶものは無い。思ふに何人でも血の通ふものなら、彼等の病傷者なるを知つては、面白可笑しく戰爭談を爲し得ないであらう。

然るにある機會が來た。余は端なく軍事界（雜誌）を見て居つた、一兵士と言葉を交はす機會を得たのである。併し余は飽く迄も彼と多く語り得ないので、「修善寺へ行くですか」と問ひたるのみであつた。稍あつて、彼より修善寺迄の里數を問はれて、「夕方に着くと思へば大差は無かろう」と答へたのみ。余は車中で見やうとして持て居た德富蘆花氏の「自然と人生」をば、徒然の慰みにと差出した。彼は「雜誌が好きで。」と大に喜び、ツック製の袋へ遂に入れた。余は再び無言となつて、遂に靜岡驛に着いた。思ふに余は意志の弱き爲めか知られど、到底病傷兵を慰め顔に鳴しを爲し得ないのである。

それより、余は靜岡に知れる種苗店に到り、二三種の草花の種子を買はんとしたら、店員は今年は花の種を仕入ませんで、昨年の殘物計りで在る、宜しくば無代で差上ると云ふ。余は亦一種の感を惹き起すを禁じ得なかつた。山海萬里の他鄕に於ける露營の夢は、已が古鄕の山川、人物花鳥を見るであらう。而も古鄕の人は花も蒔かず、春の樂しみを節するも多きと見ゆ。或人は云はう。「これ故に吾軍は強し。」と。然りこれ故に強いのである。アヽこれ故に強いのである。

余は知れる書店に立寄た。店頭の多くは戰爭物である。余の求めやうとしたものは無つたが、二三册を購て旅宿へと戻つた。其時の余の疑ひは、かくも戰爭物の出版物の多いのは、果して國民の熱望の結果に出たのであるか、或はキハモノ師の細工であるかと、此一事である。

余は翌日の午後歸宅の爲め、靜岡驛より下り滊車に乘つた。室内にまた赤十字社服の兵士を見た。併し、余は昨日の如くでない。余の無言は昨日の通りであるが、何となく昨に異るものが在る。今見る人々は病傷癒へて各其隊へ戻り再び戰地へ向ふであらうと思へば、胸に感謝の念も起り、天祐あれ、壯健なれとの念も起る。それと同時に全地球をして平和の樂園たらしめたいとの希望も起つたのである。

余は吾家に歸へた。吾家の笑の種なるサンと三郎（猫）母子は、余の歸宅を見て喜ぶような、甘へるような聲で、余に付纏るのである。余は切に感じた。余は非戰主義者である。余はこの主義を本じて、先づ吾家庭を平和ならしめるの平和を永く久しく續ければならぬと。

「記者申す。何時も清新にして意味深き君の筆には何時も記者の敬服に堪えざる所。幸に、兄が家庭のます／＼多福ならむとを祈る。」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

二葉園藝

エデン花守

○食用菊のこと

少し種類が異ふとは云へ、あの美しい氣高い菊の花が食はれるとは、何んと妙ではありませんか、殊に他の蔬菜と異り年々畑地を選んで植へ付けなくても、賞花を兼ねて庭の一隅に植へ置きさへすれば、毎年七月の下旬から雪のちら〳〵降る時分迄、綺麗な花を見せて與れます。そうして至極容易に栽培されますから、少しづゝ作つて餘分を親戚朋友へ贈らるゝも亦妙ではありませんか。

此の花の觀賞菊花と異ふところは、花は單瓣と重瓣とのみで、花の色は黄一色であることです。

●●●調理法、廣く知られぬものですから一寸申上げて置きます。これは其花瓣を以て食用としますので、種々の調理法もありませうが、普通は花心を去り、瓣ばかりを採り、それに熱湯を注ぎ掛け、そうして又暫くの間淪で、後清水中に入れ置き、それから水を去つて酢、鹽等を加へ更らに砂糖醤油をも加へて食します。

其他、鱠、刺身の副物、又は吸ひ物の上置ともし、時には鹽漬、砂糖漬などにして用ひます。一體味ひは甘い中に苦味があつて、實に一種特別の風味であります。

●●●栽培法。普通の菊のやうに四月頃、其の根株に生ふた嫩芽を取つて、一個づゝ別の地面へ假植し五月下旬頃本地へ植へ付けるのです。其の土地は能く耕起しまして、土の下の方へ厩肥か草の腐れたやうなものに油粕か屎尿を少し混せて埋め、其上に一尺五寸位を離てゝ二本づゝ植へる方がよいやうです。若し植へる時生長過ぎて勢ひがよいやうなれば、下方四寸ほどを殘し上部を摘み切つてやりなさい。また植へてから元氣がなければ、薄い水肥を一二度與へれば立派に育つて七月末になれば、どし〳〵咲きかけるから、其の滿開のより漸次に摘み採つて食膳へ供するのであります。花が咲き終つたら根際から刈り取りますと、翌年其の根株から數多の嫩芽を生じ能く繁ります。これは一

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

度植へ付けますと三四年間は、年に一二度の施肥と除草とのみで多くの美しい花と珍味は得られます。かくして五年目位ゐには、亦た前のやうに嫩芽を植へ代へるとよいのであります。

○臺灣の果物（富岡氏質問）

「臺灣には我等の同胞も同志も居りますから、彼の地の果物の名も種類も少しは存じて置きたいと思ひまして」との切なる御尋ねに背くもと、平野師應氏の研究を一寸紹介して、答へに代へます。

臺灣に於ける果物の名稱は、文字では本家の支那と略ぼ同じいが、間々文字上の稱呼と通俗的稱呼とを異はせて居ます。例へて申しますと楊梅は本名ですが俗稱では樹梅と云ひ、芭蕉實は本名ですが俗稱では芎蕉と云ふ類です。其の他本名の音通に無意味の文字を充てゝ俗稱とする芏萊(鳳梨)の如き、蕃語を無意味の文字に充てゝ、連霧(蒲桃)と俗稱するやうな類は澤山あります。左に彼の地に産する主なる種類と其稱呼とを行列させました。

桃仔(桃)　李仔(李)　栗子(栗)
蜜柑　柚仔、(文旦)　柑仔(柑橘類)
橄欖　葡萄　佛手柑
樹梅(楊梅)　杏梅(杏)　芏萊(鳳梨)
芎蕉(芭蕉子)　龍眼　紅棗(棗)
紅柹、柹仔(柹)　荔枝　檨仔、(檨果)
椰仔　檳榔　西瓜
甜瓜　石榴　梅仔(梅子)
枇杷　洋桃(五歛子)　奈柱仔又朳仔(番石榴)木
瓜、(萬壽果)　連霧、又蓮霧、輦霧、剪霧、(蒲桃)無花果

○柹の實落を防ぐ法（上村君へ）

一體柹の實の落ちますのは、

△剪定をやらぬか或は下手な爲め。
△土中に養分の足りない爲め。
△前年果實を結び過たので樹の勢力が衰へた爲め
△病蟲害の爲め。

などの影響ですから、この邊に留意せられて、尙ほ剪定を上手に行ひ、適度の肥料を與へて樹勢の平均を計らねばなりませぬ。肥料と云ひましても唯だ秋冬の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

交に、塵芥などの腐れたものに動物の骨などを少し加へて根際より一二尺離れた周圍へ埋めてやれば充分です。

○園丁料理

●●●●●菊薯の澤庵漬。　菊薯をよく洗ひ、乾して大根と共に澤庵漬に致しますと、其風味は却つて大根に優る位です。また味噌か梅酢で漬け込むも妙だそうです。

●●●●●寒菊のヒタシ。　寒菊の葉と蕾とを採り、白湯にて淪で、柔かくなつた時取り出し、程よく切り水氣をしぼり出し、胡麻醤油をかけて食しますので、味ひは菊の香氣があッて頗る上品です。

●●●●●蓮の葉飯。　蓮の嫩芽を細く切り、鹽か醤油にて煮しめ、米に加へて炊ぐのであります。また蓮の葉を米の上に覆ひて炊ぎ、暫く其の飯を蓮の葉に包み置き、葉の香を移すもよいそうです。また他の一法は、蓮の葉を煮出し味をつけた汁で米を炊ぐのであります。皆な淡泊な味で珍らしいそうです。

●●●●●椎の實の飯。　椎の實を淪で丶皮を去り、鹽を加へ

て米に交せ炊ぐのであります。山家の人の食物だと侮る方もあらうが時にはかうゆふ食物も珍らしい。

●●大根餅。　大根を長さ二寸幅厚さ共二三分に切ッて淪で、後水氣を絞り除きて、生大根八百匁と玄米粉四百匁の割合に混せ蒸して、普通の餅のやうに搗くのであります。これは衛生と經濟とを兼ねた善い餅になります。

○花守の手帳

●●●衛生草。　日向葵を衛生草と申します。それは家屋の周圍に植へると人間に有害な濕氣を吸ふて土地を乾かし肥やすからです。欧米では是を數十丁歩も栽培して其實からは脂油を採り或は其の儘家畜の飼料に致します。是は御存じの通り春早く蒔きますと、夏秋の交には見事な黄色の美花を咲き、それが太陽を追ふて花の向きを始終變へますので、日向葵と稱へるのであります。なほ此植物を沼地に植へると、マラリヤを防ぐ効があると云ひます。

望江南。　通常琉球蝮と稱へて居るハブの害毒を

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

除くから、ハブ草と申すのであります。一體此草は蝮初め毒蜂、毒蟲、蚊に刺された時、其の葉を採り、揉んで傷口に塗附ると癒えること、頗る妙だそうです。二尺内外に生長し、夏の末に黄花を咲きますが中々美しい培養も至つて容易で庭に植へるに足ります。

●●●秋の精！　今や氣澄たる眞夜中『一輪明月照膽心』底の新趣を掬し、此の身心に好適する氣候を得て、體力を養ひ精力を增進し、人生に於ける獅子心中の蟲と健闘され得るのであります。併し、これは天然賜物、單に秋の自然を代表するものと云へば何んでせうか、それは勿論『紅葉』で、秋の精は實に彼の氣高い美しい『菊花』だらうと思ひます

* * * * *

○花の種子四五種づゝ

送料を封入される方へ差上げます。此の中には嘗つて二葉兄からもらつたのもあります。しかし多くありませんからそのおつもりで。

千葉縣香取郡津富村　唯　舊　吾 ●

家事の心得　(Home Notes より)

△新しい齒磨楊枝　何時とはなく擦り切れて了まうものです。それも、全體にまんべんなく擦れるのならば宜しいが、或は中央が凹んだり、或は前の方が低くなつたり、それが爲に又新しいのを求めればならぬやうになるのが多い。これを防ぐには、最初用ひる前に數時間水に浸して置きなさい。屹度其後は堪ちます。經驗者の敎ふる所。

△机掛にインキのこぼれた時　勿論この机掛は毛氈とか、何とか、其種の毛織物です。こぼれたインキをそつと上手に取り去るには、こぼすと直ぐ乾いた食鹽を其上に振掛ける事です。インキが段々鹽に染んに來れば、ブラッシュで以てそれを除き、代りをどん〳〵振掛ける。斯うして居る間には、何時か其インキが跡なく消えます。

△蟻を防ぐ法　蟻は硼砂(Borax)が嫌ひ故、戸棚などへ這入るのを見付た時は、之を少しづゝお撒きなさい。慌てゝ逃げ出す事は請合です。

△指の尖を詰めた時　子供などが戸を開閉する時には、よくある例ひです。其樣な折には直ぐにその指頭をぬる湯の中へ入さすのが上分別。屹度其痛は去ります。此理由は、ぬる湯の爲に指頭の爪が引延ばされて、柔らくなる故、其下に鬱いて(詰められて)居る血が、急に通路を得て、流通が自由になりませう。即ち痛みの止るのはこの所以からです。

△錫の器　錫の器を磨くには、軟石鹼、磨砂、並びにアンモニアの三種を各一オンス宛それに沸騰つた湯を少し交ぜて糊のやうなものを作らへるのです。これで、器の錆目を幾度も擦り、更に柔かい布で滴拭きします。

編輯便り

○秋と人　秋は人の身體を引緊める時節であると同時に、また人々の思想と感情をシイリアスにする時です。秋は人に人の弱く且つ欠點多き事を教へて、造化の偉大、上帝の意匠の完全なる理由を說明して吳れます。修養も此時なれば、改悛の時機も亦此時を措て他に覓め難い。新事業に就くもよければ、改革の端緒も此時に於て始めるがよろしいと思ふ。

○小說『女夫波』　記者は此書の上卷を讀了し、約の如く本號に一篇の批評文を載せる手筈であつた處、差迫つた二十九日になつて、新に其下篇が屆きました。折角であるから、今一應この兩卷を通讀し、それより得たる感想を委しく十二月の分に掲ける事に致しませう。

○內職論　神奈川の宮本如電君より內職の事に就て、面白い投書がありました。同君の希望はその投書を土臺として、一篇の論文を書いてくれとの事です。記者は次號の誌上に於て少し所感を述べませう。

△鑛毒地視察記　由分社小林氏の夫人の稿であります。記事輻湊の爲め續稿は次の號にあける事にしました。

△二葉君よりの通信　毎月一二回宛互に音信して居りますが、過般原稿と一所に來た手紙の中に、「家庭雜誌へ原稿を送るのを毎月の義務と思ひ、これでもなか〳〵勉めて居るのですよ。幸に送るものは送らぬと氣が濟まぬ性なので……其代り私の家庭は、どの位家庭雜誌が厭はすか、それは恐らく兄の想像外だらうと思ひます。云々」とありました。記者はいつも手紙の中へ書いて送る事ですが、同君の何時も快筆にして、エナヂーの强い事には、皆敬服して居るので御座います。君は目下專心著述に從事して居られるさうですが、脫稿後はどんな有益な書物が出來るか、只今から待遠です。

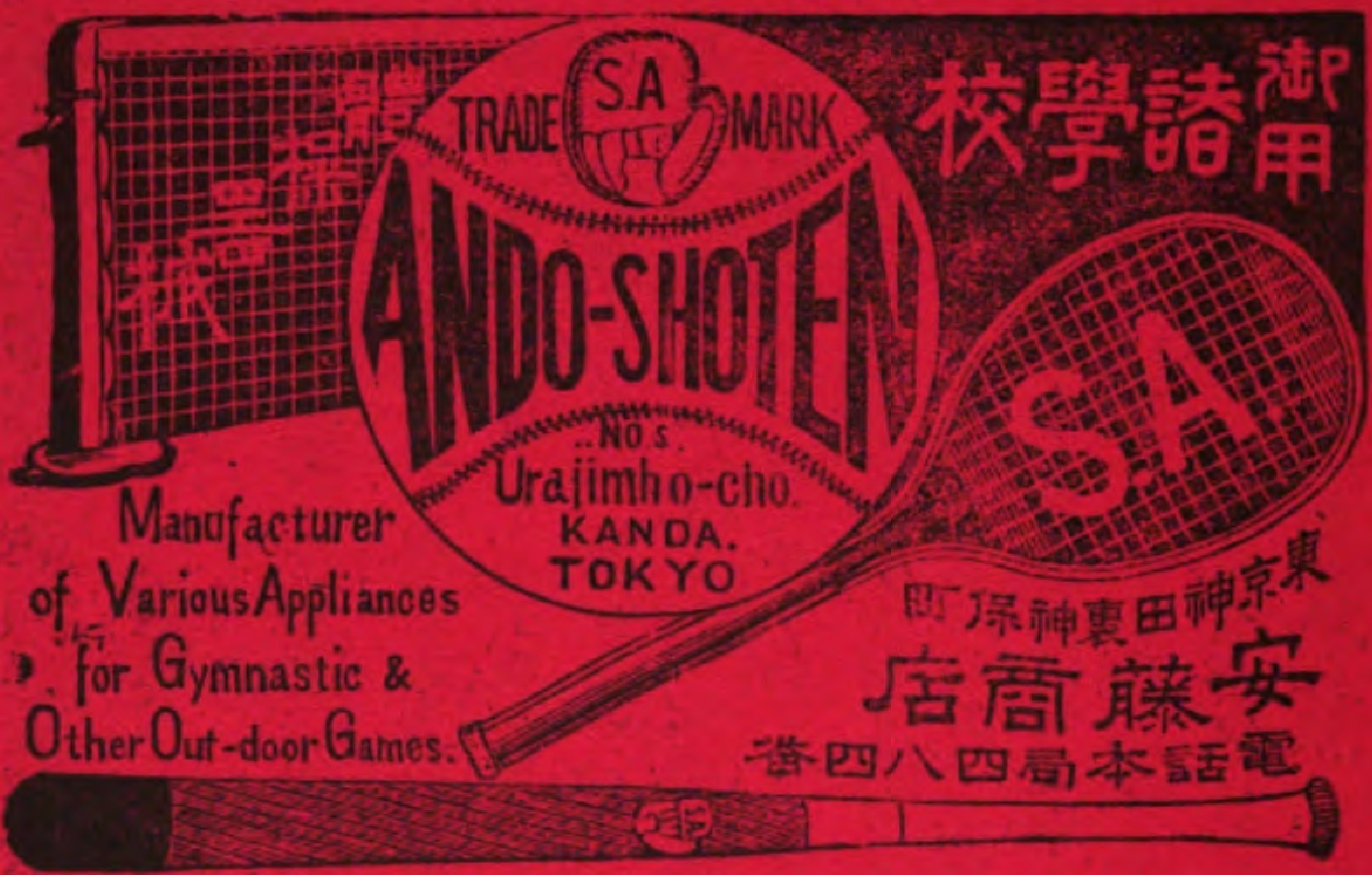
○祿亭主人の繪葉書　四五日前祿亭主人から一葉の繪葉書がひら〳〵と舞ひ込みました。見ると、ペン畫を銅版にしたやうなものでしたが、其意匠が頗る面白いのです。否、面白いと云ふよりは、一種のサチリカルの、申さば痛切な諷刺畫とも名附たらば宜しいでせうか。其畫は立派な西洋仕立の紳士と夫人で、睦しさうに腕を組合つて步いて居る所です。それはよろしいが、その紳士なる人の頭を見ると、二本の角が生えて居て、顏は恐ろしい鬼の面（つら）です。夫人の方は何も知らず、「この立派な妾が郎人を見よ。」と云はぬ計り、嫣然として、道行く人に誇つて居る姿を見せて居ます。世間には斯う云ふ夫婦が多くはありますまいか。現在手と手を組合して居ながら、我が夫が鬼のやうな專制君主である事を知らぬとは、實に憐れな事ではありませんか。

○岩崎天哉君へ　好意多謝、御希望は實行します。

○『少年』　時事新報社發行の「少年」は今度改頁を加へて大層よくなりました。

○最近の寄贈書目　「なんな」第四十號「よこはま」第二七號「商家の友」第三十一號「少年」第十四號「佛教婦人」第四十號「新人」第五十號「敎育硏究」第七號「社會主義」第八十二號「女子技藝講義」第一號「博物學雜誌」第五十號「婦人新報」第八十九號「弘道」第百五十一號「家庭の友」第二六號「催眠術新報」第十二號「婦人衞生雜誌」第百七十八號「中學科講義錄」第二十二號「平民新聞」每號「少女新聞」第五號「稲田會月報」第二十二號「日本女學生」第十九號「婦女新聞」每號「靑森縣敎育」第三十七號「家庭週報」第八號「實業週報」每號「日本波葉時報」第二十五號「家庭新聞」第四十一號「幽の敎」第百二號

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA



改良ロンテニス
二重枠ラケット一組

一號品	一二、五〇〇
二號品	一一、〇〇〇
三號品	八、八〇〇
四號品	七、四〇〇
五號品	六、七〇〇
六號品	五、七〇〇
七號小學用	四、七〇〇
八號婦人用	六、〇〇〇
九號婦人用	七、〇〇〇

改良ロンテニス
櫻二重枠ラケット一組

一號品	一三、三〇〇
二號品	一一、七〇〇
三號品	九、五〇〇
四號品	八、二〇〇
五號品	七、二〇〇
六號品	六、二〇〇

ピンポン室內テニス

一號	一箱	一、二二〇
二號	同	一、五〇〇
三號	同	一、六八〇
四號	同	一、八三〇
號外	同	〇、八八〇

改良テニスネット

一號	一張四間半	一、七五〇
二號	一張五間半	二、二五〇
三號	一張六間	二、四五〇
四號	一張七間	二、九五〇

ゴム入フートボール

二號	一個	四、〇〇〇
三號	同	四、五〇〇
四號	同	五、〇〇〇
五號	同	五、五〇〇
六號	同	六、〇〇〇
七號	同	六、五〇〇
八號	同	七、〇〇〇

體操遊戲器械一切

東京神田裏神保町五
安藤商店
電話本局四百八十四

福田（舊姓景山）英子女史著

妾の半生涯

表裝頗る美麗　著者寫眞入

正價卅五錢　郵稅六錢

▲明治十八年大井、小林、新井等の朝鮮事件に參加し一少女の身を以て進で政客老士の間に周旋し、大に婦人本來の能力を發揮して其天職を世に示し依て以て男尊女卑の陋習を打破せんと企てし景山英子女史の英名は今も尚ほ世人の記憶に新たなるべし、女史は蓋し理を以て導く代りに事實を以て證明し、奇道によりて一擧に功を收めんとしたるなりき、不幸事志と違ひて空しく不遇の人となり、多血多恨の性は事に觸れ、物に觸れて感慨湧くが如く遂に筆を執りて人世を叙し世態を論じ、或は當路の失政を批難し或は所謂志士政客の內幕を指摘し忽ち戀愛を說き夫婦を說き家庭を說く、本著即ち是れなり、端を女史の家庭に起し局を社會主義の爲めに瘁しつゝある今日に結ぶ、其間寺小屋あり政談演說會あり故鄕の墓詣、東京の裏店住居あり扨は壯士合宿の梁山泊となり爆發物搭載の船となり酒樓の高會となり獄中の呻吟となり恠奇變幻殆んど應接の暇なく而して人物には華族あり辯護士あり乞食あり獄吏なり、女豪傑あり俳優あり凡そ女史の遭遇せるあらゆる階段の人物を寫實して紅緣夾雜また配合の妙を盡せり舊時の政黨を知り所謂志士を知り人情世態の變遷を知らんと欲する者は委く此實歴にして小說よりも奇趣ある本著を讀まれよ。

賣捌所　東京市神田區表神保町　東京堂　大阪市東區備後町四丁目　吉岡平助

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

帝國貯蓄銀行

銀座一丁目河岸通り（電話新橋 八一六番 二八〇八番）

所在地	店名	電話
飯倉四ッ辻	飯倉支店	電話新橋一五七四番
赤坂表一丁目	赤坂支店	電話新橋二〇六八番
四谷大通り	四谷支店	電話番町五一〇番
牛込神樂坂	神樂坂支店	電話番町六三〇番
本郷一丁目角	本郷支店	電話下谷七二番
神田須田町	須田町支店	電話本局二〇七三番
兩國米澤町	米澤町支店	電話浪花二五九〇番
淺草吾妻橋通	吾妻橋支店	電話下谷七三番
南品川一丁目	品川支店	電話新橋一一三九番
横濱吉田町	横濱支店	電話横濱一三〇四番
日本橋坂本町	代理店 田中銀行	電話浪花二四〇番

▲本紙は婦人の味方となり時に社會の壓制と戰ひ時に婦人の鞭撻者ともなる

▲本紙は婦人を理想境に導かんことを期すれども尙現社會を忘るゝことなし

▲社會の根底は家庭に家庭の中心は婦人にあり本紙此點より社會改良を期す

▲本紙は婦人界を進歩せしむる根底の女子敎育にあるを信じ此方面に盡力す

婦女新聞

毎週月曜

定價一部三錢　三ヶ月卅七錢　半年七十二錢　全國無郵税

▲新しき婦人問題の論義を聞かんと欲する人は必ず本紙に來らざるべからず

▲婦人男女學界の出來事を知らんと欲する人は必ず本紙を讀まざるべからず

▲本紙は發行以來滿四年を經て今や漸く婦人界の一勢力と見らるゝに至れり

▲夫人令孃女敎師女學生にして本紙を讀まざる人は時勢に後るゝの悔あらん

發行所　東京市牛込區東五軒町四一（電話番町千三百六番）婦女新聞社

化學進歩の一大現象
今世紀衛生上の維新

東京食療院

當院は日常の食養上に化學的學理を應用し諸種の疾病を根本的に全治せしむ就中胃腸等の消化器病の如きは食療の効驗最も顯著なるものにして其全治するや甚だ速かなり

殊に虚弱性の者にして強健者となるの道は殆と此食療法の外に於て求むべからざるなり

本人一度來院なさるれは其後は自宅療養御自由なり

四谷區木村町二番地
士官學校前
東京食療院

來院は毎日正午限り

院長 高橋逸馬

外科皮膚病梅毒痔痳外科的婦人科尿道器械的療法

診察 午前九時より十二時まで

東京 新橋際出雲橋 加藤病院

院長 獨國醫學士 加藤時次郎

分院 横濱神奈川臺○火木土午後二時至六時
小田原海岸 毎月曜午前中

電話本局八八八番
一三八五番
東京神田區駿河臺鈴木町二番地（御茶水橋畔）
東洋内科醫院

院長 醫學士 高田畊安

診察 毎日午前但日曜日及大祭日休業、入院診斷ハ臨時應需、火木土曜、鎌倉臨診○病室増設落成

神奈川縣相州高座郡茅ヶ崎海濱
（停車場所在）
南湖院

副院長 醫學得業士 林 止

診察 院長出診土曜日午後、副院長診察毎日前、但日曜日大祭日休業、入院診斷隨時應需、土曜日午後施診

東京麴町區三番町三十番地
（市ヶ谷停車場附近）
高田病院施診所

主任 醫學士 松日三爾

診察 毎日午前、但日曜ト祭日休業、[illegible]
生注ヲ示シ處方箋ヲ與フ○往診應需、[illegible]

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

脳病 靜靖丸 頭痛

脳力を明快にし脳病神經病を全治す

脳病 にて常に頭重く、記憶弱力く、忍耐力薄く、氣欝ぎ、不眠、頭痛を煩ふ人

神經 症にて僅の事を苦慮し、常に動悸、息ぎれを感じ怒り易く、悲み易く、心弱き人

逆上 症にて常に顔紅く、頭痛、眩暈し、耳鳴目かすみ、肩凝り背重く、便通少なき人

頭痛 症にて學生の常に煩ふ勉學性頭痛、感冒、徹夜、苦慮等より發する者其他總ての頭痛及び頭痛持の人

不眠 神經家又は老人等の夜分安眠を得ざる人、亦は苦慮、悲痛、等にて眠むられざる人

其他常に脳を勞する人及神經家亦は大酒家、肥滿家は持藥として此藥を服用せらるべし脳力を強健にし精神を快活ならしめ、中風、卒中風を豫防する希有の偉効あり、

藥價 三日分弱金拾錢 廿二日分(常備用)金壹圓 十日分金五拾錢 六日分金三拾錢 四日分金貳拾錢

本舗 東京市日本橋區藥研堀町 藥劑師 高木與八郎

逆上を引下げ睡眠を催し頭痛を即治す

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

家庭雜誌第十一號　明治三十六年四月五日第三種郵便物認可　明治三十七年十一月二日發行

慈善券

ライオン歯磨小袋入に添付せり詳細は
實物に就き御承知あらんことを乞ふ

發兌元
東京
小林富次郎

粉製
赤罐入
發賣

意匠嶄新且つ優美なる彩色罐入にして頗る携帯に便なり
能く香氣の發散を防止し終に至迄本品獨有の佳香を保つを得べし
遠征の士其他旅行用に適せり
定價一箇拾貳錢

發兌元
大阪
小林支店